



自由を掴むために強く生きる

SECRET 7 LINE

2007年に結成し、メロディックパンクやイージーコアを昇華させたオリジナリティを武器にライブを重ねてきたSECRET 7 LINE。活動の結晶とも言える自主企画フェス“THICK FESTIVAL”を2012年にスタートさせ、バンドとしてますます勢いを増す生え抜きのライブバンドだ。そんな彼らの約1年9ヶ月ぶりとなる新作は、高いポピュラリティと普遍的な強さが音からビシビシと伝わってくる極上キラチューン揃い。ほとんどが盟友・GOOD4NOTHINGとのWレコ発となるリリースツアー、そして“THICK FESTIVAL 2014”と、リリース後もキッズ垂涎のライブ / イベントが目白押し。結成7周年を迎えたSECRET 7 LINE、激要チェックです!!

「いろんなバンドと対バンできたのも今に繋がっていると思うし。でも強く

なったかどうかは自分ではわかりません。相変わらず必死ですね」

●今年が SECRET 7 LINE にとって区切りのいい7周年ですね。

3人：びったり7周年です!!

RYO：山あり、山あり、山ありの7年でしたね。

TAKESHI：早かった気はするけどね。

SHINJI：長かったようで短かったようでもありますね。初めてのライブは足がガクガク震えてたんですけど。

●え? ガクガク? それまでもバンド経験ありましたよね?

SHINJI：ありました。

RYO：この7年は楽しいことと苦しいことの連続っていうか。バンドを続けていけばいくほど、クリアしなければいけないポイントっていうのは常にあるし、そういう意味で、安心は1mmもできないですね。

SHINJI：苦しかったけど、それまで夢だったことが実現したことたくさんあったし、昔大好きでCDを聴いていた人たちと対バンしたり、一緒に打ち上げしたり、仲良くなった。

TAKESHI：俺は楽しかったことしかないですね。

●それぞれの性格を表しているというか、三人三様ですね。自主企画フェス“THICK FESTIVAL”は今年で3回目となりますが、あのイベントを始めたことは大き

かったんじゃないですか?

3人：大きいですね。

●どう大きいですか?

RYO：会場が大きいです。

●もうちょっとメンタル的なこと言ってもらっていないですか?

SHINJI：俺ら単体で CLUB CITTA' でワンマンやるか? って考えたら絶対にやれないですけど、自分たちよりもキャリアや実力のあるバンドにいっぱい出てもらって、みんながいいライブをしていちばん最後にやるっていう。そういうことを経験できたのもデカいし、それだけのイベントをやることができたっていう経験も大きいです。

●SECRET 7 LINE はいつも必死でやってきたじゃないですか。こういうインタビューのときはバカなこと言っても笑ってますけど、前のバンドが解散して、大阪から上京してきた RYO さんと SHINJI くんが始めたのがこのバンドで。上京したての頃は年下のバンドに交ざってがんばっていて、だからこそ、“THICK FESTIVAL”は掲げ所にもなっているだろうし、自信にも繋がっているだろうなと想像するんですが、RYO：“バンドをやっていたよかった”といちばん思える

のが“THICK FESTIVAL”ですね。ツアーファイナルのワンマンとかももちろん感動するんですけど、“THICK FESTIVAL”は先輩や後輩のバンド、いろんな人に力を貸してもらってやるからだと思うんです。出演者のみんなも「めっちゃ楽しい」って言うてるし、そういう状況が「バンドをやっていたよかった」という気持ちに繋がるといいます。

●出演する人たちも対バンしたことのある仲の良い人たちばかりで、要するにそれまでの SECRET 7 LINE の歩みの結晶が“THICK FESTIVAL”だ。

3人：そうですね。

●今年は5月に開催する“THICK FESTIVAL”ですが、その前にアルバム“LIVE HARDER”がリリースとなりますよね。今回のアルバムを聴いたときのいちばんの印象は“強さ”なんです。SECRET 7 LINE はメロディックパンクやポップパンクをルーツにした音楽をやってきたって、さっきも言ったようにこの7年間必死に活動を続けてきましたよね。

3人：はい。

●でも人柄的には、決してパンクではない。

TAKESHI：あ、そうですね。

●というか、人柄的にはポップだし。

RYO：高門寺にも住んでないし。

●今作はそういう SECRET 7 LINE が培ってきたものや、その人柄が全部詰まっている感じがしたんです。音楽的にはライブ感があって楽しくてポップな要素もあれば、熱い想いもあるし、ずっと必死に走ってきたことも伝わってくる… SECRET 7 LINE そのものから受ける印象に近いなど。

SHINJI：ああ。

●そんな3人が7年間続けてきて、これからも好きなことをやっていくには自分たちが強くないといけない、みたいなマインドを今作から感じる。

RYO：その通りです!

3人：よくできました! (拍手)

●インタビューは毎回このパターンやないか!

SHINJI：でもその通りだと思います。言われて「あ、強くなったのかな?」みたいな。

●強くないとこういう楽曲は作れないし、歌えないと思う。

RYO：自分で強くなったとはなかなか感じられないんじゃないですかね。

●そういうもんか。

SHINJI：確かに自信は持てるようにはなれませんが

ね。俺、“THICK FESTIVAL”っていうイベント名に最初は抵抗があったんですよ。

●え?

SHINJI：パッと聞いただけで俺らのイベントってわかるじゃないですか。「シクセブ」が主催する「シクフェス」っていう。いい名前だと思うんですけど、でもそういうイベントに先輩を呼ぶのはちょっと失礼になるんじゃないかなって。

●ああ。

SHINJI：そんなことを思っていたんですけど、去年の“THICK FESTIVAL”の数ヶ月前かな? RADIOTS の YOSHIYA さんが「“THICK FESTIVAL”ってすごくいいイベント名だね」と言ってくれたんです。「でもそういう名前前のイベントに先輩を呼ぶのは失礼かなって思うんですけど…」って俺が思っていることを話したら、「いいんだよ」って。「出るバンドはお前らのことが好きで出るって言うてるんだから、自信を持って“THICK FESTIVAL”と言えよ」って。その言葉で、俺はすごく前に進めたんです。

●なるほど。

SHINJI：いろんなバンドと対バンできたのも今に繋がっていると思うし。でも強くなったかどうかは自分

ではわかりません。相変わらず必死ですね。

●今作は、音楽的にはすごくポップでキャッチーだと思うんです。でもそれを綺麗に演奏するんじゃないって、CD だとしても生々しく演奏して歌っている。だからポップなのに気迫みたいなものが伝わってくる。普段はバカなことを言ってるけど、ステージの上では汗だくで必死になってライブをしている3人の姿と重なるといいですね。

SHINJI：今作を作っているときは必死だったんですよ。とにかくいいものをという感じで、そのときにいちばんいいと思うものを曲にしたというかな。

RYO：僕もそうですね。あ、でも、遊び心を入れることは意識しました。インパクトのある楽曲だったとしても、そこにも遊び心を入れる。そういう意味で、今までと比べても更に曲を拡げようとは思ってました。

SHINJI：それはあったね。敢えて自分たちの幅を狭めたというかな。

●最たる例は M-3「BURN TO THE GROUND」ですね。ジャンルを超えてというかな、今までの SECRET 7 LINE の常識を超えたポピュラリティがある。掛け声というか呼びというかな、とにかくびっぴりしました。この曲いいですね。

「俺らもともとライブバンドだし、キッズにも“お互い強くなるぞう”って言いたいし、“もっと自由になろうぜ”って言いたい」

RYO:「オー!」とか「イエー!」は今までもいっぱいやりましたけど、それを越えたものを入れたかったんです。「BURN TO THE GROUND」は曲調的にはシリアスなんですよね。でもあの掛け声が入ることによって違和感が出るんじゃないですか。

●そうすよね。シリアスなのにポップ。

RYO: ヒントはゴレンジャーのエンディングなんです。あとはドリフ。あともう1つ言うなら、MY CHEMICAL ROMANCE。

●ああ〜。

RYO: いい意味での違和感を出したかったんです。TAKESHI: 評判もいもんね。今でもそんな手法を使ったことがなかったから意表も突けたというか。

●違和感という部分では、M-11「MY SWEET HOME」にはホーンが入っている。

SHINJI: 自分が今までやってきたこともあったし、今までやらなかったことにもチャレンジしたんです。その延長で「MY SWEET HOME」はホーンが合うんじゃないかかと思って。

TAKESHI: あのホーンは、後輩を招集したんです。

●あと歌詞についてですけど、吹っ切れたような強さを感じたんです。悩みとか葛藤があるかもしれないけど、その一歩先の視点や気持ちで歌詞になっているというか。

SHINJI: 確かに、気持ち的には吹っ切れた感じはありますね。いつからかな〜? 自分でよくわからないですけど…。

●同棲していた彼女と別れたから? (※SHINJI は以前同棲していた彼女と別れ、住む場所を失ってレーベルスタッフ宅にしばらく住んでいた)

一同: アハハハハ(笑)

TAKESHI: 「MY SWEET HOME」はそのことを歌っています。

●え? マジで?

SHINJI: そんなことも笑って歌えるようになったんだでしょうね。そういう意味でも吹っ切れた(笑)。だからちょっとふざけた曲にしたくて、ホーンも入れて、彼女と別れて、同棲していたから住む家もなくなって、そのタイミングで仕事もなくなりました(笑)。

●不幸の三重奏だ!

SHINJI: 「よく生きてたな」って思うんですけど(笑)、でも今だからこそ曲にできた。

●まさに吹っ切れましたね。

SHINJI: あと、この曲に関してはないんですけど、俺は諦めるのをやめたんです。

●わっ! 名言出た!

TAKESHI: いつか言ってたよね。「できないって言いたくない」って。

SHINJI: 諦めるの方向にしているあると思うんですけど。例えば「なにかをやりたいけどやらない」というのも1つの諦めだし、人に対して自分に対してでも「所詮こういうもんじゃ」という諦めだったり。そういう気持ち

は今作のいろんな曲の歌詞に入れているんです。例えば「所詮人は1人だ」と言う人ってすごく多いと思うんですけど、俺もそう思うんですけど、その諦めを俺はしたくなくて。「夢を叶えるのは無理だ」と思った時点で終わりだとも思う。年を取ったからこそそう思うようになったのかもしれないけど、いろんな人にも諦めることをやめてもらいたいなって。いろいろなどを踏まえた上で、諦めることをやめたくなっています。

●確かにそういう視点はいろんな曲に現れますね。アルバムタイトルにも。

TAKESHI: そうですね。「〇〇HARDER」というタイトルにしたっていうのが昔からあって。HIP HOPの人の「SLAM HARDER」とか「PARTY HARDER」という曲があったりして、かっこいいなと思っていて、それで「LIVE HARDER」というタイトルを思いついたんです。「LIVE HARDER」って、字面からしたら「強く生きる」みたいな意味かと思いきや、「放埒に生きる」という意味らしんですけど。自由に近いというか。これはおもしろいかなと。

●へえ〜。

TAKESHI: その時点でこのタイトルにしたんですけど、俺らもともとライブバンドだし、キッズにも「お互い強くなるぞう」って言いたいし、「もっと自由になろうぜ」って言いたい。そういういろんな意味でこのタイトルにしたんです。

●言い得て妙ですね。

TAKESHI: 自分でもいいタイトルになったなと思います。ジャケットともリンクしてるし。

●タイトルやジャケットも含め、今の SECRET 7 LINE を表した作品ですね。そしてリリースのツアーですが、ほとんどが GOOD4NOTHING とのW/レコ発ということで。

3人: 楽しみです!!

●GOOD4NOTHING の U-tan がインタビューで言っていたんですけど、GOOD4NOTHING はバンドとしては SECRET 7 LINE の先輩だし、Kick Rock MUSIC 出身ということもあって近い存在だからこそ、敢えて今年で絡んでごなかつたらしいですね。RYOくんは同じ今年だから (※GOOD4NOTHING の U-tan と TANNY と MAKKIN は RYO と同じ年)、プライドもあるだろうし、でも、SECRET 7 LINE は「THICK FESTIVAL」を始めたし、もう気にせずに対等の立場でツアーができるのが嬉しいって。

SHINJI: ああ〜。

TAKESHI: 嬉しいな。

RYO: U-tan が言ってくれたことは僕もまったくその通りで、年齢は一緒だけど、でもバンドとしては先輩で、僕らが結成した7年前って、GOOD4NOTHING はアルバム「Kiss The World」を出したくらいのも頃なんですよ。

●GOOD4NOTHING がブレイクした作品ですね。

RYO: 僕らが「上京してすぐ「Kiss The World」のツアーファイナル観に行きましたもん。

SHINJI: あ、そうや。

●天と地の差だ!
RYO: だから年齢が一緒なだけで、バンドとしては活動しているラインが全然違うんです。僕は、年下だったらもっと絡めただろうなってずっと思ってたんです。でも同じ年だからこそ、どうしゃべっていかもわからない。タメ口を聞くことも僕にはできなかったんです。

●ああ〜。

RYO: でもあいつらは「同じ年なんやから敬語使われても」って感じになるじゃないですか。そうなるって、難しかったですよね。で、結局は自分たちが自信を付けて、胸を張って「一緒にやろう」と言える状況になるまでは、なかなか絡めなくて。

●なるほどね。

RYO: だから徐々に徐々に間を詰めていって、もちろんまだまだ上の存在ですけど、そんなことも考えなくていいくらいになって、1年くらい前からかな? 打ち上げとかで U-tan とガッツリしゃべるようになって、他のメンバーにも、今回のツアーはすごく意味がありますね。それって自分としても嬉しいし、GOOD4NOTHING がそう思ってくれていたっていうのも嬉しいです。だから個人的にも、今回のツアーはすごく意味がありますね。

●7年前に RYO くんが引け目を感じていたことは、ぎっと彼らもわかっていたんじゃないかな。

RYO: もちろんそうだと思います。彼らも不用意に絡んでごなかつたし。今だからこそ、やっと一緒にツアーができるっていう。

●めっちゃ楽しみですね。

SHINJI: めっちゃ楽しみです。バンドとしても絶対に成長できるツアーだと思えます。

TAKESHI: ただ、GOOD4NOTHING は1月にアルバムを出して、僕らより先にツアーを始めてるから、絶対に仕上がってると思うんですけど。これはがんばらなければ(笑)。

RYO: ただでさえめっちゃライブやってるバンドやのに、1ヶ月くらいツアーやったところに僕らが合流するっていう(笑)。

●ハハハ(笑)。

SHINJI: 俺は日本一好きなバンドが GOOD4NOTHING なんです。ライブのやり方で悩んだときとか、全部 GOOD4NOTHING のライブからヒントを得てきたらいい。

●めっちゃ好きですね。

SHINJI: だからもう、楽しみしかないんです。ずっと背中を追いかけた存在だし、俺にとっては夢のひとつが叶うツアーなんですよ。

●ツアー中に「THICK FESTIVAL」もあるし、今回のツアーはいろんな意味で楽しみたいです!!
3人: いろんな意味で楽しみたいです!!

interview : Takeshi.Yamanaka



Album
『LIVE HARDER』



Kick Rock MUSIC
EKRM-1250
¥2,310+税
2014/3/12 Release

※4/2 (水) 仙台 MACANA から「LIVE HARDER tour 2014」スタート!! 詳細は HP でチェック!!
<http://secret7line.com/>